



鳥海山雨模様

BN
1017 山口 直樹

鳥海山、それは遠い昔、大学二年の夏、夏合宿で朝日連峰から下山後、白神山地へ向かう途中、日本海沿岸から天に聳える堂々とした山容を目にして、憧れた山だ。あれから28年、私はついにその山に行くことを決意した。

9月19日、仕事を終え、22:00 TDL発酒田の夜行バスに飛び乗り、翌朝08:30頃、酒田駅前に到着。3,500円と破格の運賃だ。そこから羽越線で遊佐に行き、タクシード一の滝登山口へ移動。運転手さんはロードバイク（自転車）に乗りかつ飛ばすことが大好きというアスリートで、車中、体を動かすことの素晴らしさについての話題で盛り上がる。外は雨がポトポト降っているため、かつて魅せられた堂々たる山容は全く見ることができない。10:30頃、合羽を着て一の滝（標高500m位）から歩き始める。今日はピークの肩、鳥ノ海湖畔御浜小屋（標高1,700m

題字 廉隅 進

第 46 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

位）まで、約6時間の行程。明日はピークを越え、秋田県猿倉温泉に抜ける南北縦走コースだ。二ノ滝を過ぎたあたりで、道を見失う。天候が悪いせいもあり、森の中の沢沿いの道をたどるのは少々難しい。「迷ったら明確な地点まで引き返す。」の大原則に従い、引き返すと、沢沿いの岩にペンキ矢印があり、見落として踏み跡に迷い込んだことに気づく。裾野が広い山なので、比較的なだらかな傾斜で徐々に高度を上げていく。沢沿いの登りのため水場は豊富だが、そろそろ水を30位、汲もうと思案していた矢先、下山してくる若者に出会う。上の沢を渉るときに靴底が剥がれたので引き返してきたとのこと。昨年、私も鹿島槍で同じ屈辱を味わったことを話すと、車に別の靴が用意しており、戻って、明日再挑戦するという。気をつけて！お互いに声をかけ合うと同時に更に上で水が汲めることを知る。「ビール、日本酒、ウイスキー、食料、着替え、ボンベ、寝袋」と私のザックもそれなりに重い（アホか？）ため出来るだけ上で給水したい。尚、今回の山行ではこの他、1回しか、人に会わなかった。不動滝を過ぎたあたりで給水した直後、またも事件発生。重くなったザックに足をとられ、ふらついた瞬間、湿原に落ちた。雨で体が冷え、力が抜けたか？危ない。

「もう若くないのだ。気をつけろ！」と自分に言い聞かせつつ時計を見ると間もなく14:00だ。一服して、水とカロリーメイトを口にしながら、脚をマッサージ。落ち着いたのでザックを背負って歩き始める。一瞬ガスが晴れ、足下に遊佐の町と日本海が見えた。湿原に咲いた花も心を慰めてくれる。美しい湿原の中を更に登り、15:15、鳥の海を囲む外輪沿いの山道に出る。ここから御浜小屋が見えるはずだが、ガスで見えない。15分程で外輪沿いに北上する小屋への踏み跡と、一旦、外輪から西へ下り、小屋から南西へ降る長坂道に向かう山道に向かう道との分岐に到着。小屋への北上を試みるが、ガスが濃く、草原のなかの踏み跡は判然としない。時刻は15:30。日没が迫り、徘徊しても体力と時間を浪費し危険なので、ガスの中を迷いながら分岐まで戻り、山道を西へ降り、長坂道に出て、北東へ迂回する。16:30何とか御浜小屋に到着。ほつとする。9月中旬より無人小屋だが、入口は鍵がかかっている。早速中へ入り、料金箱に無人期素泊まり料金の1,000円を投入し、本日の無事と、小屋をたった一人で使わせてもらうことに感謝し、手を合わせた。小屋内寒暖計は9℃。もたもたしていると真つ暗になるので、早速、濡れた衣服を着替え、寝床を作り、ビールを飲みながら、お湯を沸かし、初めて食べるアルファ米と中華井レトルトの準備をする。通常、私が山行の際、愛用するサトウのご飯は容器ごとコッヘ



鳥海山御浜小屋から

ルに納める際に苦労するが、アルファ米は米の入ったアルミ容器にお湯を入れるだけなので、この点便利だ。味も上出来。寒いので日本酒に切り替えて食事を続ける。それでも寒いのでホットウイスキーで締め、18…00頃、ヘッドランプを抱いて消灯。

翌朝04…30頃目が覚める。外に出ると、晴れてはいないものの雲は高く、東に鳥海山の頂がくっきり見え、北側には秋田の街灯りと海岸線が美しく広がっている。嬉しくなり、朝食のレトルト粥を温めて食し、身支度をして小屋の前の見晴らし台に出る。南側に昨日

徘徊した外輪の周囲の様子が手にとるようにわかり、分岐もよく見える。その先には遊佐の街と海岸線が美しい。山は天候次第で地獄にも天国にもなることを改めて思い知らされた。しかし、また雨が降る可能性も高いので、山容を写真に収め、06…00頃、小屋を後にする。本日は山頂を経て、林道まで約6時間、その先、宿まで約2時間30分、林道を歩く予定だ。

1時間程東に歩きピークへの登りにかかる。標高差500m余りだ。再び天気が崩れ、雨の中、文殊岳、伏拝岳、行者岳と小ピークを過ぎ、08…20頃、2,236mのピーク（新山…1972年の噴火でできた鳥海山最高峰）の取り付き点に到着する。ピークまで100m位岩場を登るが、風雨が強くガスっていて全く見えない。雨着の下で汗が冷えてとても寒い。岩場の急登のため、ザックを置いて登りにかかる。視界が悪いため、岩場のペイントの位置を確認し、帰りに見失わないようにかじかむ手で岩を掴み、慎重に登る。08…40頃、ピーク到着。中央大学のプレートのみ認められたが、ガスの中で視界は2、3mしか利かず、風雨激しく体が震えているので、すぐに引き返す。ザックの置いてある取り付き点まで戻ったが、体の震えが止まらず危険なので、ピーク直下にある山頂小屋で濡れた下着を薄手のセーターに着替える。飴玉を口に入れようやく落ち着く。

ガスの中、岩場に標されたペンキをたより

に岩場を北上し、09…40頃、かつてのピーク七高山（2,230m）に到着。三角点があり、立派な石碑が建っている。カロリーメイトをかじり、石碑の写真を撮る。幾分、風雨は弱まったが視界は悪い。ここからは、本日宿泊する温泉宿に向かってひたすら下降するだけだ。寒いので、早々に切り上げ、秋田県側に降り始める。20分位歩いたところで本日宿泊予定の鳥海荘の社長さん率いる鳥海山ツアーパーティーとすれ違った。運のいいことに登山口まで車で来ているので、帰りに林道で見かけたら宿まで乗せていただけたとのこと。「ラッキー！」私は何故か急に元気になり、バンバン降る。12…40頃、見返り坂でビスケットを食べ、降ってきた尾根を振り返るとガスが晴れて、鳥海山が聳えている。更に降り、13…35頃、登山口（猿倉口）に到着。沢から引いている水場があったので、新鮮なおいしい水をいただき、飴玉で疲れを癒す。

ここから鳥海荘に向かうため、林道を降る。1時間余り降った奥山牧場付近で、後ろからツアーの方々がバスで通りかかった。バスに続く、軽自動車運転する鳥海荘社長さんが約束どおり声を掛けて下さり、車に乗せていただいた。とても気さくな方で、車中、缶コーヒーをご馳走になり、山の話で盛り上がる。ありがたい。お蔭様で林道歩きが半分くらいに短縮され、15…00過ぎ、本日の宿、湯ノ沢温泉の鳥海荘に到着。宿の露天風呂からは鳥海山が望めてとても良い。夕食は由利牛

のステーキやきのこの天ぷらが絶品。酒も旨い。更には従業員の方々の心温まるご親切な対応も気持ちがよく、山旅の疲れが吹き飛んだ。宿の売店で購入した土産、鳥海荘オリジナル土産「わらびかりんとう」も好評だった。翌朝、車で矢島駅まで送っていただいた。運転手さんの話によると、社長さんは今日も早朝から、宿泊者の方々を連れて鳥海山へ登っているとのこと。驚くべきことに週に2、3回、鳥海山登山ツアーを主催しているそうだ。還暦は超えているとお見受けしたが、すごい体力だ。往年の鈴木善次郎さんを思い出す。矢島駅から着物の美しい「おばこ」が車掌を務める、由利高原鉄道に乗車、車中、地元の方々と山の話題、沿線名勝の話題で盛り上がる。切符は今時珍しい硬券のため、羽後本荘駅でJRに乗り換え、秋田駅で下車する際、記念にいただいた。秋田駅からバスで秋田空港に向かい、帰宅の途についた。今度機会があったら、是非天気の良い日に、鳥海荘社長さん主催の登山ツアーに参加し、「鳥海山の晴れ姿」を堪能したいと思った。

昭和五十年年度卒

「情断会」還暦の会

BN 775 小田野義之

さる十月十三日、早生まれの五十八歳から寄り道をした六十二歳までの同期が、神田神

保町の「八羽」に集まり、「還暦を祝う会」を催しました。全員の還暦を待っていると、遺影で参加という者が出るかもしれぬと誰かが怪しみ、思いたったが吉日、早速計画に取り掛かった次第です。土曜日で「八羽」は休業でしたが、常連？の我等にに応じて貸切で営業していただきました。感謝です。同期十五人に、中途退部で住所のわかつている四人に加え、ひとつ上の代から厳選(?)した先輩四人もお呼びして、結果十三人しか集まりま



せんでしたが、懐かしい顔も現れ、昼過ぎから大変愉快な宴会と相成りました。昔の写真を集めてプロジェクトでスライドショーも行い、これも合わせて大好評でした。

残念ながら遠方であつたり諸事情があつたりで参加できなかった者も多く、これはまた計画せねばと思つていますが、古稀まで待つていとさすがに欠ける者が出るかもしれず、二、三年後には実現すべしと参加者全員で一致しました。

三十二年ぶりの草津同期会

BN 893 福田知則

私達も「大学出てからさんじゅうね〜ん。」と、鈴木元監督が熱唱されていた歌の年代となりました。

そして一昨年のラグビー明早戦後の飲み会で、首都圏メンバー(群馬の今井君もそうです)、奥田君(秋田県大仙市)そして岡村君(熊本市)総意のもと、三十二年ぶりの草津同期会が企画されることになりました。

それでは記録係井上君から任命を受けた私が、記録をまとめます。

二〇一二年七月七日、本流組八名は東京駅集合、新幹線で上毛高原駅へ。久保君はスイカで上毛高原駅へ行くつもりだったらしい。乗車後江尻君、永井君は早くもプチ宴会をスタート。

一方もうひとつの本流組六名も、田辺車で

上毛高原駅を目指し、車提供組三名とも無事合流し、各自クライマックスシーン第一話を繰広げる。ここから総勢十七名が、今井車、開発車、堀越車、田辺車に分乗して一路ホテル桜井へ。

そして黒柳君、高木君、渡辺勝広君などと合流。ここでもクライマックスシーン第二話が登場する。(ロマンスグレイの山下君には全く気付きませんでした。ゴメン！)

興奮が収まった後野反湖へ向かうが、湖は濃霧の中に隠れ、とりあえず記念写真を撮り早々にホテルへ戻る。

現地集合組も全員遅れることなく合流し、正部員養成参加者四十六名中、今回の参加者二十三名が揃う。そして全員で日本三大温泉のひとつを十分浴び、いざ宴会へ。

宴会係担当山口君の乾杯で宴会が始まる。開始後三十分から正部員養成を始め夏合宿など、各自が思い思いに寄った写真の映写会が始まる。これは予想以上の盛り上がりを見せ、堀君はパソコンに食いつきつ放し。その他のメンバーも料理そっこのけでスクリーンに食いつき、「おー！」「うわー！」の雄叫びがあちらこちらから連発する。酒なしコンパでこれだけ盛り上がったのは、テントの中以來ではなからうか。こうしてクライマックスシーン第三話は、このあと一時間半続く。ちなみにこの時の酒代は、三万円÷二十三名＝一三〇〇円。(田辺君、この企画はよかったね。飲み放題プランにじゃなくてよかった。)

宴会後は部屋での情報交換グループとカラオケグループに分かれる。カラオケグループは弾けまくる。佐藤君の審査に通らないと鐘二つは一番終了時、鐘ひとつは一フリーズ歌った時点で曲削除。そんな中抜群の歌唱力で唯一最後まで歌い切ったのが木村君。一方KST48結成時にセンターを狙っている近田君も負けじと歌いまくる。こうして夜は更けていく。

翌七月八日。小雨。朝食後全員で小屋跡を見学、その後はおみやげタイム。各自おいしい温泉まんじゅうを買うために、街中を散策する。平岡君はまんじゅう屋を四件はしごし、極上のまんじゅうを購入する。

そして本企画二つめの観光スポット、白根山頂上を車で目指す。しかし雨と霧で何も見えず、以後の行動パターンは野反湖に同じ。最後に頂上パーキング内のレストハウスでひと息。次回開催場所を検討した結果、中部ブロックに、そして幹事は渡辺勝広君、黒柳君、関口君、高木君、堀君に決定する。そして解散。みなさんお疲れ様でした。

後日関口君から草津小屋跡で撮った集合写真が送られてきましたが、ホントみんないい顔しています。この写真を見て、ニヤニヤしているのは私だけでしょうか？焚付にされた私のスキー板のためにカンパイをしようと言ってくれたのは藤原君でした。でもなぜ山口君だけは腕組みをして、カメラを睨み付けているのでしょうか？ひじょうに不思議です。



最後に今回参加されたみなさんは元より、都合が悪くて参加できなかったみなさんとも、今年は中部でぜひ会えることを楽しみにしています。

M W V 36 会の近況報告

BN 425 長井吾一

前略 秋冷の候 諸兄お変わりなく元氣にお過ごしのことと拝察申し上げます。
過日、大学卒業して50年の節目となり、思
い出の地“草津”において2年ぶりに同期会
を開催いたしました。



参加者は9名と少なかつたのは残念でしたが、学生時代に戻って楽しい一時を過ごしました。

草津白根小屋の跡地は駐車場になっており、周りはホテル・マンション等の建物で変わり果て、昔の面影は全く驚きました。

なお、記念写真を同封いたしますので機会がありましたら掲載願います。

草々

出席者 423 紀井辰之助 425 長井 吾一 428 富沢 隆夫

432 山口 勝 434 本庄 旭 435 佐々木啓弼

439 前北 良臣 620 小澤 義雄 622 石井 健

海千山千会（昭和41年度卒業）

I N 横浜

BN 598 長侶栄喜

拝啓、新春の候、なため会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のことと存じます。

ここに、なため会「薫風」紙面にてOB諸氏へのご挨拶を企てた動機は最近数年の「薫風」編集内容に勇気づけられた他ありません。投稿への文才の壁も個人紀行文のみでなく、同期会動向報告、なため会活動事業計画および報告、俳句短歌の文芸、そして訃報等、広く掲示板のごとく情報満載の寛大さにあります。まさしく天野OB会会長第43号ご挨拶にありましたOB相互の交流と親睦を感じさせ

るものであり、一筆啓上に及んだしいでございませう。

過つてご指導いただいた先輩の同期会、行動を共にした事のある後輩同期会、顔も知らぬ後輩同期会、それぞれの報告等には懐かしさ、勇気、期待と、多くの感動を頂いております。情報を共有しOB現役一体となった明治大学の気風でM W Vの益々の発展をお祈りするしだいでございます。

さて、私たち海千山千会は、卒業後47年を数え、今年または来年2014年には古希を迎える年齢となりました。大学1年の夏に奥鬼怒山荘ボッカ合宿の得がたい経験を経、その落成式典の晴れがましかった参加の思い出は、どこよりも遠く広がった青空と山荘を暖かく着飾る紅葉の美しさとともに今もしっかりと青春時代のど真ん中にあります。この時代は、東京オリンピックを昭和39年秋の開催に向け世界に冠たる大都市に変貌を遂げつつあり、社会インフラ建設の槌音の只中にありました。東京オリンピックは喧騒から逃げるがごとく秋期別荘で草津山小屋の隈篋とリンドウの紫の中でそのファンファーレをラジオを通して聴き、歓びに参加しておりました。このような時代背景で4年間一緒に過ごした同期を同期会活動を通してここに紹介させていただきます。

余談でありますが海千山千のネーミングは同期内それぞれの勝手な解釈で成り立っています。昨今の私達全体写真を見ると「どや顔」



2012年10月28日 海千山千会 in 横浜

横浜港大さん橋 Royal Wing

のオンパレードに私など小心者には「どや顔」の隙間に顔をちんまりと出すのが精一杯で、海千山千の言葉とおりに解釈する気持ちに変わってきております。海山千回という「沢山」を数える位の自然との調和の心を忘れることないよう、又は、本質がわからないという意味を無限への可能性へと ポジティブに解釈したネーミングだと宣言したい気持ちが私の本心でありますが!!!

本題に戻ります。題目の「海千山千 IN

横浜」は2012年10月28日夕方 横浜港大さん橋に集まりロイヤルウイング号での東京湾クルージングを楽しみました。一船室を借り切り中華料理とアルコール飲み放題の2時間、横浜在住 伊丹幹事の企画で2次会にはハーバーズカフェとしゃれ、横浜の夜景を楽しみました。この日は幹事挨拶後、大洞から奥鬼怒山荘50周年記念事業で大洞実行委員長の就任決定報告がありその概況説明を受け、私達同期全員での協力支援及び事業の成功を決意しました。参加者は、伊丹、大洞以下、土屋、池上夫妻、名古屋から上京した山内、秋元、片山、難波、長野県千曲市から上京の吉池、出口夫人、清水、石田 そして長侶夫妻の15名です。

活動は、IN横浜から遡ると、2008年10月11日12日の大洞幹事による「手白沢温泉1泊と奥鬼怒山荘訪問」で紅葉散策、2007年12月8日9日の片山幹事による「江ノ島岩本楼1泊と鎌倉アルプス紅葉散策」、2005年9月3日4日の池上幹事による「駒ヶ根ビュウホテル四季1泊と木曾駒が岳、千畳敷散策」、2004年10月23日24日の長侶幹事による「還暦記念 飯能名栗温泉大松閣1泊と多峰主山散策」、そして1997年10月10日11日に吉池幹事による「安曇野、乗鞍、奈良井宿そして白骨温泉1泊」となるのでしょうか。これよりさらに遡ると、横浜みなと未来、新宿歌舞伎町、神保町界限等での数多の飲み会でしょうか、手帳、日記

の類もなく年月日特定不能の状況であることが今になって悲しくなります。1泊での同期会は、1997年に長野県在住の吉池夫妻の発案で又奥様及び家族同伴を許すなど今に至っております。それぞれの幹事担当のルールは特になく、阿吽の呼吸で誰かが引き受けてくれる一方、幹事の独断と偏見で決められています。退職年齢後のその時間を同期会で埋める楽しみを十分に満喫できなかったらうとおもわれる初沢、出口 としてはるか昔日に30代の若さで逝去された大江をふくむ3人への哀悼の念が薄れていく私たちの心の不条理を恨めしくも思う今日であります。

さて最後に、世事にもどれば、首都高速道路は50年の老朽化懸念、社会インフラ構造物への不安、維持管理の問題、見直しとメディア露出が多くにぎわしております。振り返って、奥鬼怒山荘を思えば、私達の多くの利用もないだろうと思えますが、現役OB一体となり万全の注意管理が行き届き、50年の歳月に耐えつづけ、その存在感の大きさを誇りに嬉しく思っております。当時の山荘建設計画に務めてくださった多くの緒先輩OBの方々に、又計画決定後現地で多くの汗を流された学生当時4年の辰巳午の会、3年の山久会、2年の横八会の賛同を受け、当時1年生であった海千山千会が50周年記念事業の中心となつて参加することの機会頂きましたことと、そのめぐり合わせに感謝するしだいでこ

ございます。
奥鬼怒山荘のぬくもりがこれからも末永く
あることを祈り、同期会の報告とさせていただきます。
敬具

■柴田常夫前会長を偲ぶ会

日時…平成24年9月28日(金)
場所…明治大学 岸本・宮城ホール
(リパティタワー23階)

出席者…77名
一、開会の辞
一、黙祷



ご家族（奥様、お嬢様、お孫さん）と同期一同

なため会OB基金（繰入前）

項 目	金 額
廉隅家・鈴木家寄付金	883,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会建設基金	491,000
合 計	4,631,000



なため会OB基金（繰入後）

項 目	金 額
廉隅家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会建設基金	491,000
合 計	4,831,000

■ご報告

柴田家より「なため会」に寄付金（二十万円）を頂戴いたしました。昨年12月11日開催の幹事会において協議した結果、OB基金に繰り入れることに決まりましたので、左記のとおりご報告いたします。

- | | |
|-------------|----------------|
| 一、主催者代表挨拶 | 昭和35年度卒業生同期会代表 |
| 二、代表献花 | 内田 吉成 |
| 三、献杯 | |
| 四、歓談 | |
| 五、主催者謝辞 | |
| 六、発起人OB有志代表 | 天野 俣明 |
| 七、校歌・部歌 | 鈴木 正彦 |
| 八、リダー | |
| 九、閉会の辞 | |

柴田常夫を偲ぶ会

BN 299 大内善一

本日は、なため会の会長を務め数々の業績を残された柴田常夫さんを偲びお集まりいただきありがとうございます。

私と柴田さんのご縁は、丁度私がワンダーフォーゲル部を卒業の年に柴田さんが入部されました。私は部は卒業したのですが、学部は卒業できず、毎日部室に顔を出しておりました。その頃の印象は、明大生らしくない粹で威勢がよく、何とはなくせっかちで江戸っ子らしい感じがしていたことが思い出されます。伺いますと早稲田高校卒であることが判り、なるほどと思ったことでした。

そのような訳で、柴田さんの同期の内田さんたちと今年も八月二十八日に立山の室堂山荘に泊り、大先輩の新村、島林、吉田さんたちと二晩飲みながら、せっかちに逝ってしまった柴田さんの思い出話をしたところででした。

柴田さんには、明大針生山荘建設については大きな力を貸していただき、とくに何もないうちから高価な音響装置のオーディオを寄付していただき、行く度にいい音楽を聞かせていただいています。

誰にも何も言わず、本当にせっかちに逝ってしまったことが残念でなりません。秋風とともにさびしい限りです。柴田常夫さん、どうかやすらかに眠りください。さようなら。

なため会追悼ワンデルングに

参加して

BN 925 市川洋子

東京駅6時40分発M A Xやまびこ203号。前夜上京した私は6時過ぎにホームへ到着し、入線してくる新幹線と記念撮影。遠足に行く小学生の気分だ。伊豆の入口に住んでいる私の足はいつも車で、時々出かける山も登山口まで車で行くというケースがほとんどの為、電車を使つての山行はとても新鮮だ。なため会ワンデルングへの参加は三ツ峠山に続き二度目である。

同期のM子さんの到着を待つて車内へ。指定された席で発車を待つていると、T先輩より、「隣は同期のH君が来るから」とのこと。彼と会うのは昨年五月の同期会以来である。程なくH君、ニツカズボン姿で登場。席に着くなり「二時間しか寝てねえんだよ」とひとりブツブツ（現役時代と何ら変わらない様子に思わず笑いが）。楽しい山行になりそうである。あのニツカズボンは現役の時のものか。彼の物持ちの良さに感心！

大宮駅より二年上のM先輩乗車される。卒業以来なので三十年ぶりの再会。現役時代よりふた回り位スマートになられた感じ。聞くところによるとフルマラソンを走つておられるとか。さすが！私たちとは鍛え方が違う。那須塩原駅に7時55分着。駅前には今夜の

宿泊先である「自在荘」のバスが迎えに来てくれている。天気は快晴。空気が澄みきつていて気持ちが良い。那須の山並みもよく見える。途中のコンビニで昼食やデザート調達し、一路バスでロープウェイ山麓駅へ。紅葉シーズンの為か途中から渋滞。山麓駅駐車場は前夜に到着したマイカーで一杯だ。宿の方の話によると、シーズン中は駐車場に入れない車が道路の両側に路上駐車し、片側一方通行状態になるそうだ。しかし、国立公園の為駐車場拡張も思うようにできないとか。

山麓駅ではT先輩よりコース別に乗車券が配られるが、自分のコースを間違ってしまう方もおられ幹事の方も大変である（すみません。お手伝いもせず……）。なため会御一行30名は100人乗りロープウェイで雲上へ。山頂駅付近で柴田前会長の追悼式を行ない記念撮影。その後コースごとに出発し、縦走組は茶臼岳を目指す。ゴロゴロした岩の間を登ると硫黄のにおいが鼻をつく。40分程で山頂へ。写真を撮り小休止の後先へ急ぐ。峰の茶屋跡を経て朝日岳へ。家族連れやツアー客も多く道を譲り合いながら進む。朝日岳西肩で昼食。風があり上着を着込む。ここまでコースリーダーのO先輩の下、順調にとばして来た為予定より30分程早い。歩行時間5時間のAコース12名は、下山が遅れると温泉に入る時間がなく宴会となる恐れがある為、皆必死だ。朝日岳西肩より一時間程で三本槍山頂。ここから来ると登山者の数も減り歩きやすい。ここ

から紅葉を楽しみながら長い尾根を2時間下り北温泉に出る。温泉駐車場で「自在荘」のバスに乗せて頂き今宵の宿へ。こじんまりした宿だが至る所に生花が生けられ、女将さんや従業員の方の気配りが感じられるとてもいい宿である。宴会では先輩のさしいれのワインを頂いたり先輩方の話を伺ったり。卒業後50年経った今でも新人養成Wの話で盛り上がるという先輩の話を聞き、部ならではの



感じたり。久しぶりに校歌を歌い現役時代を懐かしむとともに、なため会の運営に尽力されている方のおかげで様々な行事が行なわれていることを改めて知った。

ワンデルングに参加したいけど装備がないという方、短いコースならスニーカーでも大丈夫だし、今ではネットでブランドの靴やザック、雨具まで手軽にレンタルできるとか。今回は紅葉の山よし、宿よし、温泉よしと充実した二日間だった。二日目の解散後は、那須アウトレットで面白い物も楽しめた。

ワンデルングや宿泊を企画してくださった諸先輩方に感謝です。お世話になり、ありがとうございました。また参加させて頂きます。

追悼ワンデルングを終えて

BN 859 丸山貞二

10月20日6時40分、東京発やまびこ203号に乗り、大宮で数名合流して那須塩原駅に7時55分到着。そこからロープウェイ山麓駅までは、本日の宿泊先、自在荘のマイクロバスで送迎してもらいました。

ロープウェイで一気に300m稼いで山頂駅（1,690m）に到着。初めに柴田前会長の遺影の前に全員で黙とうを捧げ、その後、3コースに分かれて紅葉の那須岳を楽しみました。

当日は晴天で風も無く、絶好のワンデルング日和の中、私はAコースに同行しました。

茶臼岳（1,897m）は岩場も多く、登山道の脇には噴煙が上がリ、山が生きていることを実感できます。小さな祠の那須岳神社にお参りした後、峰の茶屋（1,720m）まで下りて昼食です。本来、峰の茶屋は強風で有名ですが、当日はほとんど風もなく、子供連れの登山者も多くいました。那須岳は年齢や経験に合わせた楽しみ方ができる山と言えます。

そのまま進路を北にとり、朝日岳（1,896m）、そして北温泉分岐からは三本槍岳（1,916m）までピストンしましたが、三本槍頂上からの眺望は素晴らしく、猪苗代湖まで見渡すことができました。分岐からは、東に中の大倉尾根を下りましたが、紅葉の美しさに自然と足が止まり、各自思い思いの写真タイムになりました。北温泉（1,150m）から再び自在荘のマイクロバスに乗り、宿へと向かいました。

宿では温泉で疲れを癒した後、総勢30名の宴会で楽しい一夜を過ごしました。私は、卒業後30年目にして、初めてなため会のワンデルングに参加しましたが、各自の体力に合わせた無理のない登山が楽しめることがわかりました。なため会活性化のためにも、是非、若手OB、OGの参加をお願いします。

於：第45回那須岳ワンデルング&那須温泉
一泊旅行会（平成24年10月20～21日）

計 報

BN 297 岩永親幸OBが平成24年10月24日に
ご逝去されました。
BN 114 堀切泰一OBが平成24年11月5日に
ご逝去されました。
BN 225 豊田伊佐雄OBが平成24年12月13日
にご逝去されました。
BN 209 高野栄三OBが平成25年1月8日に
ご逝去されました。
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

■住所変更のお知らせ

BN 443 芳野 毅（転居）
自宅…〒206-0011 東京都多摩市関戸5-15-15
Fハウス101

BN 620 小澤義雄（転居）
自宅…〒791-0244 愛媛県松山市水泥町855花ビル401
電話…080-1172-15388

■平成25年 なため会ワンデルング企画

2月の富士山の大パノラマ、5月の森林浴コース、8月は13年ぶりの筑波山、そして10月は1泊2日での奥鬼怒山荘竣工50周年企画ワンデルングと多彩なコースを企画しました。年間スケジュールを押さえていただき、ふるってご参加ください。

【冬】2月9日（土）

石割山（1,413m）
山中湖を前景に、富士山を心行くまで堪能する人気のパノラマコースです。
・新宿発（07…10）山中湖登山口までの往復高速バス。

・立寄り湯…山中湖温泉「紅富士の湯」
【春】5月25日（土）
大マテイ山（1,409m）

ブナやミズナラの広葉樹林が茂る尾根上の森を
逍遙する、森林浴コースです。

・立寄り湯…多摩源流「小菅の湯」

【夏】8月31日(土)

筑波山(877m)

第4回企画ワンデルング、13年ぶりの再企画です。

・立寄り湯…「筑波の湯」

【秋】10月5日(土)、6日(日)

*奥鬼怒山荘竣工50周年企画ワンデルング

Aコース…金精峠温泉ヶ岳く根名草山く

手白沢温泉く明大山荘

Bコース…女夫淵温泉く八丁の湯く加仁湯く

日光沢温泉く手白沢温泉く明大山荘

*お問合せ先…企画振興部メールアドレス

(左記の部員5名全員に送信されます)

kikaku@natamekai.org

FAX : 042-474-3811

661 大賀徹雄 携帯 : 090-1693-1562

728 横尾廣志 携帯 : 090-4937-2406

795 濱田 稔 携帯 : 080-4730-8594

859 丸山貞二 携帯 : 090-8248-3032

1064 井上堅一 FAX : 03-3994-5853

■お知らせ

奥鬼怒山荘建設50周年記念式典を、現地に
おいて左記の日程で開催いたします。

日程…平成25年10月5日(土)・6日(日)

なため会ワンデルングも合わせて企画され
ますので、多くのOB・OGのご参加をお待
ちしています。

また、現地に参加できない方々のために、
東京で「50周年の集い」を11月下旬く12月上
旬に開催する予定です。

それぞれの詳細については、次号7月末発
行の薫風47号でお知らせします。

寒中御見舞申し上げます。

昭和 39 年度卒業 山久会



〔新執行部紹介〕



渡邊 弘樹
会計、2班 SL、情報係
理工学部電気電子生命学科
明治大学附属中野高等学校
「安定した資金繰りを心掛けます」



浜口 小百合
主務、1班 SL、食料係
政治経済学部経済学科
東京学芸大学附属高等学校
「楽しく安全な活動ができるよう頑張ります」



南 隼人
主将、2班 SL、手白小屋係
農学部農学科
都立武蔵高等学校
「困ったときは助け合い」



金子 大修
3班 PL、衛生係
理工学部機械工学科
芝浦工業大学柏高等学校
「班員の個性を大切にしていきたいです」



坂巻 裕太
2班 PL、トレーニング係
理工学部電気電子生命学科
芝浦工業大学柏高等学校
「一年間、頑張ります」



西村 怜
1班 PL、針生小屋係
法学部法律学科
愛媛県立松山東高等学校
「楽しく安全なワンデリングを心がけていきます」



安井 美穂
3班 SL、編集係
国際日本学部国際日本学科
青森県立青森中央高等学校



佐藤 岳
3班 SL、針生小屋係、編集係
農学部生命科学科
渋谷教育学園幕張高等学校
「しっかりと班員をサポートしていきたいです」



木村 和頼
2班 SL、記録係
法学部法律学科
浅野高等学校
「立派な先輩に追いつけるよう頑張ります」

平成25年度現役指導スタッフ紹介

●部長 長峰 章

●顧問 坂本 清 新田 功

●監督 諏訪本 充弘 (75)

●コーチ 和賀井 英雄 (817)

尾崎 剛史 (1174) 井上 堅一 (1064)

年間行事予定

平成24年 10月 ワーク合宿(済)

平成25年 11月 秋合宿(済)

平成25年 2月 スキー合宿

平成25年 3月 春合宿

平成25年 4月 新人歓迎W

平成25年 5月 新人養成W

平成25年 7月 初夏W

平成25年 8月 夏合宿(地域未定)

平成25年 9月 正部員養成W

平成25年 9月 リーダー養成W

■小屋の利用を希望する方へ

下記の詳細小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘(手白小屋)

南 隼人 09001930619438

○針生山荘(針生小屋)

西村 怜 08001639311418

佐藤 岳 08001347318904

■平成24年度卒業生歓迎会のお知らせ

日時 平成25年3月20日(祝) 17:00~19:00

会場 明治大学 岸本・宮城ホール 受付開始 16:30

会場 明治大学 岸本・宮城ホール (リパティタワー23階)

会費 6,000円

皆様のご参加をお待ちしています。

寒中お見舞い申し上げます



昭和40年度卒業 横八会

後列左より	566 松本栄	568 松本好	569 愛甲 591 岡野	587 水落 586 木村 589 田中	584 鈴木 583 橋本 585 小堀	588 桑原
	567 石井	575 野田	570 一色			
前列左より						

平成24年11月13日 於：小田急レイクホテル

編集後記

BN 835 猪狩 稔

昨秋の「なため会ワンデルング・那須旅行会」に常連の方以外に若手OB・OGが4名参加してくれました。たった4人なんです、会全体がいつも増して明るい笑顔でいっぱいでした。「活性化」というのでしょうか。とても素晴らしい事だと思います。ベテランも大事に、新しい人も大事に。3月にはなため会行事の中でも一大イベントになった「卒業生歓送迎会」もあります。一人でも多くの新しい方に参加いただき、皆でなため会を盛り上げようではありませんか。なため会は「参加することに意義あり！」です。（次号原稿募集中 igarim@nifty.com へ送ってください。）

発行日 平成二十五年一月

編集 鈴木 康弘 一色 雅男
池上 勝彦 石井 克太
猪狩 稔 加藤 章一
西澤賢一郎 井上 稔也
日暮 浩美

発行者 明治大学体育会
ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社